

2016年度 学校評価報告書（大阪聖母学院小学校）

学校目標	カトリックの宗教的な価値観を基盤として、 『人を愛し、自らを高める強い意志と豊かな心を持つ子ども』を育成する。
------	--

校長 荒川 伸二

重点目標	目指す子ども像 ・すべての友だちを大切にしている子ども ・友だちと支えあい進んで学習する子ども ・正義のために自分の力を喜んで発揮する子ども ・健康や安全に留意する子ども
------	---

学 校 自 己 評 価		学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標		年 度 評 価（2017年3月31日 現在）	
大目標	重点目標	具体的方策	取組の成果
	① 体 験 を 重 視 し た 学 び	i) 宗教的体験 ・ 典礼暦（聖母月・御心の月・死者の月・待降節・四旬節等）に沿った生活目標（聖書のみ言葉）を設定し、日常生活において愛・奉仕・正義の精神を实践する子どもの育成に努める。 ・ 始業と終業の祈りや、食前と食後の祈りを通して感謝の心を育む。 ・ 朝の祈りの集い、ロザリオの祈りを通して、思いやりや平和を願う心を育む。 (ii) 清掃活動と福祉体験 ・ 全学年縦割りの班で行う清掃活動や、各学年で実施される福祉体験活動等を通して、協力していくことや相手の立場に立つことの必要性に気づき、お互いの違いを受け入れながら協働していくことを大切にすることを育む。 ・ 各学年で実施される福祉体験活動等を通して、神様から与えられた命はみな平等で尊いこと知り、一人ひとりを大切にすることを育てる。 iii) 合宿体験 ・ 本物に触れる活動を体験し、一人ひとりがその体験を振り返り、自らの問いの答えを見つける学習に取り組むことで、獲得した知識を発表し、自らの行動に生かしていく実践力を育む。 ・ 学級や学年を超えた友達との体験を通して絆を深める。	・ 典礼暦(5月聖母月、10月ロザリオ月、12月待降節、3月四旬節)において、各クラスで実践目標を決め、月末にその実践を振り返り、全校でまとめの集いを実施した。 ・ 清掃活動、合宿においてもその都度反省と振り返りを行うことで、子どもが自分の成長を確認し、自己肯定感を育成することができた。 ・ 結果、アンケート項目「仲の良い友達がいる、クラスの友達と仲良くできる」においては子どもの回答が100%という結果になったことは大変うれしい結果である。一方、「今の学年で友達からいじめられたことはない」の項目では4%(昨年度+1%)の子どもが当てはまらなると回答結果となった。 ・ 1年生～6年生まで各学年の発達段階に応じた合宿を行い、学級や学年を超えた友達との体験を通して絆を深めることができた。
		i) 宗教科教育 ・ 宗教の授業においては、聖書の価値観にもとづいてカトリックの精神を学び、実践していく態度を育成する授業を行う。 ・ カトリック教会の神父様に、宗教科の研究授業を各学年で月3～4回程度シリーズで実施していただき、担任は宗教専科の授業にTTとして入ることで、宗教の授業を学ぶ機会とする。	・ 「宗教の授業で学んだことは、生活の中で役立っている」「この学校でお祈りや聖歌、神様のことを教えてもらってよかった」の項目では、それぞれ98%(昨年度+3%)、99%(昨年度±0%)という回答であった。 ・ カトリック教会の神父様に、宗教科の研究授業を各学年で月3～4回程度シリーズで実施いただき、担任は宗教専科の授業にTTとして入ることで、宗教の授業を学ぶ機会としたことで、教員の宗教研修の機会が増えたことも上記の結果に寄与したと考える。

実施日 2016年3月
学校関係者からの意見・要望・評価等
・ 2016年度4月の小学校、中学校、高等学校が連携した学校改革発表について、小学校はすでに共学化しており、保護者に違和感はないと考えている。21世紀型教育がこれからの学校の存続、発展に結びついていくことを願っている。校名変更についても、いろいろな思いをお持ちの方がいるが、新しい教育の実践と常に社会で求められる人を輩出する学校として進もうとしている方向に賛同しており、前向きに受け入れている。 ・ 保護者は勉強と友達関係に関心が高い。1,2生の頃は家庭学習や友達関係もあまり難しくないが、3,4年になると学習内容が難しくなり、友達関係も学校だけではなく、塾の友達関係も加わり複雑になってくる。そのため、学校からの情報をより知りたくようになってくる。このことが、情報手提供を希望する理由の一つになっているのではないかと。 ・ 学習については、テストで一旦結果が出るが、その後、補習等で学力保障の充実をお願いしたい。 ・ 中学校・高等学校が共学になるので、ますます小学校から中学校への内部進学者が増えていくように、教員間の連絡を密にして、保護者に情報を提供してほしい。

教育充実の取り組み

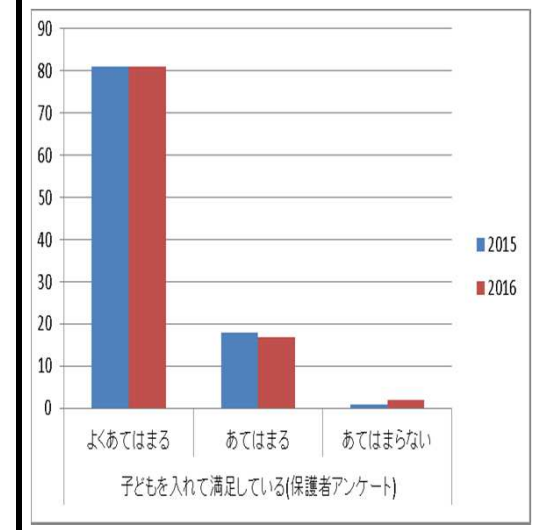
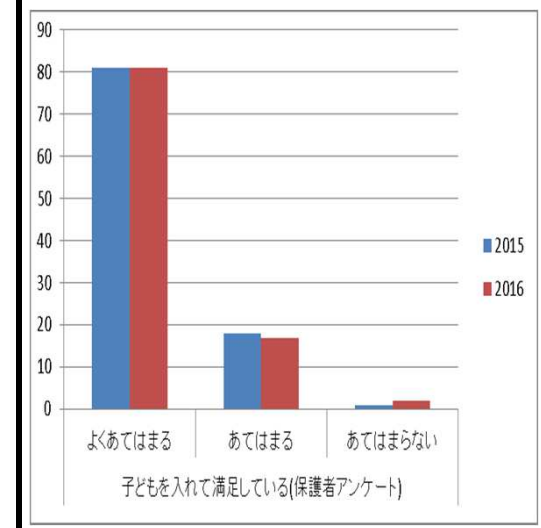
② 学力の保障

教育事業

③ 放課後活動の充実

<p>ii) 国語教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・始業前の10分間を全校読書の時間とする朝読書を実施する。 ・各学級の朝の時間を利用して、フラッシュカードによる漢字の読み先習や音読を実施し、4年生1学期までに小学校で習う漢字の読み先習を実施する。 ・全校で受検する漢字能力検定試験の合格を目標に、漢字ノートを使つての漢字学習指導を実施する。 ・1年生から5年生において、一つ上の学年で習う漢字の学習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「国語の授業はわかりやすい」という項目は99%(昨年度-1%)という結果となった。漢字検定では、合格率99%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も漢字の読み先習や音読、漢字学習指導を継続して行い、漢字検定試験合格を目指す。
<p>(iii) 算数教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数は、全学年においてチームティーチング体制で指導にあたり、全体と個別の両指導を織り交ぜることで、理解の徹底を図り、学力の向上につなげる。 ・外部検定試験として数学検定試験を実施し、当該学年の級を全児童が合格することを目指すとともに、児童に客観的に自らの学力を認識させることで、算数への意欲を高める。 ・6年生で算数習熟度別クラスの指導を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「算数の授業はわかりやすい」という項目は99%(前年度+1%)という結果となった。全学年においてチームティーチング体制と習熟度別学習を実施することで一人ひとりにあった指導ができた結果と考える。 ・算数検定の99%の合格率となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は「算数の授業はわかりやすい」の項目が100%となることを目指す。 ・全学年においてチームティーチング体制と習熟度別学習は継続して実施する。 ・算数検定の%の合格率を目指す。そのために、各学年で定着させるべき内容は該当学年でしっかりと習得させることを徹底するため、授業を改善するとともにテスト実施後の復習の時間を充実させるよう指導計画を作成することとする。
<p>iv) その他の教科</p> <p>理科(5・6年生)、音楽(1年生から6年生)、図工(1年生から6年生)、書道(3年生から6年生)、英語(1年生から6年生)、宗教(5年生)の授業において、専門の教員を配置する専科制とし、子どもたちの感性を育て、個性と能力を最大限に伸ばす。</p> <p>iv) 伝統的な日本文化の体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五色百人一首や素読等の伝統教材を有効に活用した魅力ある授業、外部から専門家を招いて実施する低学年の昔遊びや書道体験教室及び5年生の和装礼法等の体験を通して日本文化の良さを体感させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「理科の授業はわかりやすい」の項目は100%(昨年度±0%)、「音楽の授業は楽しい」は98%(昨年度+1%)、「図工の授業は楽しい」は99%(昨年度±0%)であった。 ・書道においては3年以上の児童の全日本学書展において学校賞受賞、一部はパリ展にも出品。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も専科制を継続する。 ・伝統的な文化に関する教育、低学年の昔遊びや書道体験教室及び5年生の和装礼法も外部から専門家を招き体験を重視した教育を実施する。
<p>(vi) 英語教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネイティブ教員と英語科免許を取得している日本人教諭によるチームティーチングにより、本物の英語に触れる指導を入れながら、英語の4技能と対話力の習得に努める。 ・イメージ教育用テキストを使用し、英語に親しみながら実用的な英語の力の育成に努めた。また、他教科で習得した内容や既存の物語劇を英語で表現すること等教科横断型カリキュラムを導入し、英語で自分の考えや思いを表現する活動を実施する。 ・外部検定試験(ジュニア・イングリッシュテスト)を活用し、子どもたちの英語学習に対する意欲の向上に努める。 ・学校改革に伴い、本校独自の英語教育を展開していくため本年度より、その研究の一つとして、聞く・話す活動を重視したモデルタイムを実施する。 ・指導用教材開発 ・イメージ教育用のテキストを使用し、英語に親しみながら実用的な英語の力を育てる。 ・外部検定試験の活用 ・ジュニア・イングリッシュテスト実施し、受検への準備を通して子どもたちの英語学習に対する意欲を更に向上させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「英語の授業は楽しい」は95%(前年度-2%)であった。 ・ネイティブ教員を含む、チームティーチングでの英語授業と内部中高の英語教員の授業に加え、3年生においては英語劇、4年生以上は他教科での既習内容を英語で表現することを通して、表現力を伸ばすことができた。 ・ジュニア・イングリッシュテストの合格率は99%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は、「英語の授業は楽しい」が100%を目指す。 ・英語授業では、クラスを2つに分けて少人数制を実施する。 ・ネイティブ教員を含む、チームティーチングでの英語授業を継続する。また、3年生においては英語劇、4年生以上は他教科での既習内容を英語で表現する学習も継続する。 ・ジュニア・イングリッシュテストの合格率は100%を目指す。受験希望の級が各学年の子どもにも複数存在するため、受験前の練習をできるため個別指導できる体制を整える。
<p>vii) ICT教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットやプロジェクター、書画カメラを活用し、動画を視聴したり、図を提示したりすることで、学習意欲を高め、わかりやすい授業を実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普通教室のテレビを使用し、映像、画像などの視聴を通して子どもたちに分かりやすい授業を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員から一方向の授業となっているため、端末機器を用意し、児童のICT機器の利用・教員と児童の双方向の授業実施しを目指す。
<p>・プチパの充実</p> <p>一層の利用者増加を図るため、委託業者変更し放課後預かりから、放課後教育として実施する。</p> <p>・アフタースクールの新設</p> <p>新たな教室を開催し、一層の利用者の増加を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題の時間確保等の学習支援活動、外国人英会話・鬼ごっこ・遊具遊びなどの多様な体験プログラム及び自由遊び・読書などをとおして、利用者の増加を図ることができた。 ・通常利用13人/日から20人/日に増加。 ・フルーツ教室を新たに開催し、アフタースクールの充実を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き継ぎ、来年度も今年度の業者と契約し、充実した活動を続けていく。 ・来年度も放課後教育のアフタースクールを目指す。豊富な教室を提供するため、新しい教室の開催を目指す。

* 学校評価アンケート一部抜粋



教員のレベル向上	<p>i) 研究授業</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学期に1回、全教員が授業を見学する研究授業を実施する。外部から専門家を招き、指導・助言を受け、授業分析を行う。 全教員が年に最低1回、公開授業を実施し、他の教員から指導や助言を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期に1回ずつ、合計3回研究授業を実施した。 外部から専門家を招き、指導・助言を受け、授業分析情報を全教員で共有することで、教員の授業力の向上が図れた。 研究授業と別に公開授業を全教員が実施し、主に学院長と管理職が指導した。 	<ul style="list-style-type: none"> 21世紀型教育の3本の柱であるPBL、英語、ICTの研究を授業公開で実施していく。 教員一人が年2回授業を公開し、学院長、校長の振り返り指導を受ける。
	<p>① 確かな学力の習得</p> <p>i) 宗教部研修</p> <ul style="list-style-type: none"> 週1回の宗教の授業の教材を、各学年に月ごとに提供し、テーマへの理解を深める。 毎月の職員会議において聖書の御言葉を聞き、分かち合いによって理解を深める。 宗教研修を年3回実施し、カトリックへの理解を深める。 担任教諭は、カトリック司祭の宗教授業に参加し、宗教理念を実践する力を身につける研修の場とする。 近畿カトリック連合会主催の近畿カトリック学校養成塾と、カトリック大阪大司教区カトリック教育推進委員会主催のカトリック学校教員養成会に教員を派遣し、カトリック教育への理解とセンスを深める機会とする。 <p>(ii) 研究部</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内夏季研修会において、教員全員が自らの研修内容を発表し共有していくことで、教員全員の指導力向上を図る。 全教員が年に1回以上公開授業を実施し、他の教員から指導や助言を受け、アクティブラーニング【PBL（プロジェクトベースドラーニング）授業】の授業力向上に努める。 タブレット（I-Pad）を利用した授業実践を教科部会（視聴覚部）を中心に校内で共有し全校でICT教育が実施できるよう教員のレベルアップに努める。 各学期に1回、全教員が授業を見学する研究授業を実施する。外部から専門家を招き、指導・助言を受け、アクティブラーニング授業分析を行う。 <p>(iii) 生活指導部</p> <ul style="list-style-type: none"> 担任一人ではなく、学校の教員全員で児童を指導するという観点に立ち、毎学期、各クラスの児童の情報交換により児童理解を深める。 Q-U テストの結果の利用方法やユニバーサルデザインの指導方法について、生活指導部より提案を行い、全校で生かしていく。 定期的に外部から専門家を招き、生活指導、発達障害等の研修を行うとともに、聖母教育支援センターの学校カウンセラーと日常的に相談を行い、子どもたちの自己肯定感を育成する教育の実施に努める。 寝屋川警察署の講師による侵入者対応の研修を実施し、防犯意識を高める。 <p>(iv) 人権教育部</p> <ul style="list-style-type: none"> より豊かな人間関係を構築するために仲間づくりや円滑なコミュニケーション力を育てる取り組みを研修する。 人権週間において、宗教や特別活動の時間を利用して、人権教育授業を全学年で実施する。 <p>(v) プロジェクトチーム</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校改革に伴う本校独自のアクティブラーニングカリキュラム【PBL（プロジェクトベースドラーニング）授業】の研究を行う。 <p>(vi) 英語部会</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校改革に伴い英語思考（スーパーイングリッシュコース）と英語表現（スーパースタディーズコース）のできる子どもを育成するカリキュラムを研究する。 <p>(vii) 新任研修</p> <ul style="list-style-type: none"> 若手教員育成担当者による指導案作成や授業の進め方の指導を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> カトリック教会の神父様の講話を聴く機会は、2回にとどまった。 年10回程度のカトリック養成塾に教員1人を派遣した。 21世紀型教育を2017年度より実施するに当たり、PBL授業の研修を経営企画室・学院長の指導の下に実施した。 講師を招いて、障害者差別解消法について学び、ユニバーサルデザインなどの研修を実施した。 指導教官を採用し、若手教員の育成に努めた。 私立小学校連合会等が実施する新任研修で公開授業を実施し、研鑽を積んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 2016年度のプロジェクトチームを解散し、全員を研究部メンバーとする。具体的には、研究部をPBL、英語、ICTの3部会から構成し、毎週研究部会を開催し、研究を積み重ねていく。
	<p>② 自己点検と評価</p> <p>① 教員評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員一人ひとりが本年度の目標を設定し、各自がその進捗状況について自己点検する。 管理職が授業を参観・助言し、目標達成と教育力の向上を目指す。 <p>② アンケートの実施</p> <p>例年同様、学校評価アンケートを実施し、子どもたちが「学校が楽しい」と心から言える学校づくりを目指し、その推進に努めた。年度当初に掲げた学校教育目標が、どの程度子どもたちの学校生活において具現化できているか、児童対象アンケート、教員対象自己点検アンケート、保護者対象アンケートを実施し、その結果を踏まえて、改善に向けた取り組みを計画する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業等による管理職の指導を受け、自己点検を実施した。 子ども達のアンケートを6月と2月に実施した。保護者アンケートを10月に実施した。 ほとんどの項目で90%以上の肯定的評価となったが、子どものアンケートでは、「自分のことが好きだ」の項目ではそう思うという回答が87%(前年度-2%)に留まった。保護者のアンケートでは、「学校と保護者との連絡は密に行われている」「保護者への学習状況は十分に説明なされており、相談を気楽にできる」という項目で、そう思うという回答が92%(前年度+%)に留まった。 	<p>自己肯定感が低い子どもが13%、学校との連絡が十分でないと感じている保護者が8%いることが課題である。子ども達は、自分の長所を受け入れることが苦手と考えている。学習活動に振り返り活動を入れ、自分の成長を自覚する作業を通して、自己肯定感を育成させたい。</p> <p>保護者に対しては、学校が情報交換をする機会を増やすことで改善を図りたい。</p>

教育環境の整備	① 生活保護的要素	<ul style="list-style-type: none"> (i) 安全・安心 <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちにとって常に安全・快適であるように、教員による施設安全点検を月1回実施する。 空調機器の老朽化に伴い、D棟1階・3階及び保健室等の空調を改修する。 C・D・E棟一部壁面漏水の改修工事を実施する。 (ii) 来校者への声掛けの実施 <ul style="list-style-type: none"> 侵入者から子どもたちの安全を確保するために大切なことは、侵入させないことと侵入者の早期発見であることから、日ごろの来校者への挨拶や声掛けの徹底に努める。 保護者には胸証の着用を継続的に依頼し、安全対策に協力を依頼する。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設安全点検を月1回実施し、施設の整備に努めた。 空調機器の老朽化に伴い、D棟1階・3階及び保健室等の空調を改修した。 C・D・E棟一部壁面漏水の改修工事を実施した。 日ごろの来校者への挨拶や声掛けの徹底に努めた。 保護者には胸証の着用を学校便り等で継続的に依頼し、安全対策に協力を依頼した。 	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化した遊具の更新し、より安心で安全な環境の下、しっかりと体を動かす活動ができる環境を整備する。 E棟空調改修工事を実施する。
	② 成長促進的要素	<ul style="list-style-type: none"> (i) アクティブラーニングとICT教育 <ul style="list-style-type: none"> 後援会の協力を得て、普通教室にテレビを設置、教員用i-Padを購入し、ICT機器を使った教材の利用により子どもたちの学習意欲を高め、分かりやすい授業の実施に努める。 学習室に、話し合い学習のアフォーダンスのある机・椅子を導入し、学校改革を視野に入れたアクティブラーニング授業の環境を整える。 (ii) 国語教育 <ul style="list-style-type: none"> 後援会の協力により、普通教室に学級文庫を購入し、朝読書の充実を図る。 (iii) 美化と校内掲示 <ul style="list-style-type: none"> 教職員が一体となって校内の整理整頓と美化に努め、子どもたちの美化意識を高め、お互いに気持ちよく生活することに協力する態度の育成に努める。 生活目標や作品等の掲示物を教育活動に合わせてタイムリーに掲示していくことで、子どもたちの学習意欲を高めていくことに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 後援会の協力を得て、普通教室にテレビを設置、教員用i-Padを購入し、ICT機器を使った教材の利用により子どもたちの学習意欲を高め、分かりやすい授業の実施に努めた。 学習室に、話し合い学習のアフォーダンスのある机・椅子を導入し、学校改革を視野に入れたアクティブラーニング授業の環境を整えた。 (ii) 国語教育 <ul style="list-style-type: none"> 後援会の協力により、普通教室に学級文庫を購入し、朝読書の充実を図った。 (iii) 美化と校内掲示 <ul style="list-style-type: none"> 教職員が一体となって校内の整理整頓と美化に努めたが、子どもたちの美化意識を高め、お互いに気持ちよく生活することに協力する態度の育成は児童全員にいきわたっているとは言えない。 生活目標や作品等の掲示物を教育活動に合わせてタイムリーに掲示していくこと子どもたちの学習意欲を高めていくことに努めたが、タイムリーとは言えない場面が見受けられた。 	<p>次年度は、安全面だけでなく、ipadなどの端末機器など授業に使用する教育機器をを新調していく必要がある。</p>
	③ 環境 財政的	<ul style="list-style-type: none"> ベルナデッタホール天井電球をLED灯に入れ替える。 	<ul style="list-style-type: none"> ベルナデッタホール天井電球をLED灯に入れ替えた。 	
社会連携・奉仕活動	① と近隣の学校	<ul style="list-style-type: none"> 六中校区の定例会議への出席し、合同行事への参加を通して近隣との交流を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 六中校区の合同研修会に参加した。 合同行事であるクリーンキャンペーンに参加した。48人の参加を得た。 本校運動会に近隣自治会長4名の参加を得た。 	<ul style="list-style-type: none"> クリーンキャンペーンの参加は、減少傾向にあるため、参加数の増加を呼びかける。 今年度同様来年度も連携し、地域のきずなを深める。
	② カトリック教会	<ul style="list-style-type: none"> カトリック連合会やカトリック大阪大司教区の情報に基づき、現在のカトリックが重点的に取り組んでいる内容を理解し、教育活動の方向性に取り入れるよう努める。 近隣のカトリック香里教会の司祭のご指導（講話、ミサや祈りの集いの司式）を仰ぎながら、教員のカトリック教育（子どもたちの心の教育）に対する指導力向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> カトリック教会の神父様を招いて勉強会を年3回開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> カトリック教会から発信される情報、研修会の情報を教員に今以上に発信し、現代のカトリック教会の方向性を理解する。
	③ 保護者会	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の要望に対する、教員の報告・連絡・相談の徹底を図る。 学校が目指していく改革を可能な限り、保護者会役員と共有することができた。 学級委員で編成する「広報部」「文化教養部」「ボランティア部」と連携し、保護者の満足度の高い活動実施を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級委員で編成する「広報部」「文化教養部」「ボランティア部」において保護者に満足していただける活動実施してもらった。 保護者会の協力を得て、教室にテレビを新設することができ、音声のみでなくも視覚的情報を提示した全校放送が可能になるなど教育効果の向上に寄与した。 	<ul style="list-style-type: none"> 後援会の設立により、次年度はプロジェクター、ipadなどの教育機器を購入し、授業の向上に努めたい。 アンケートで学校と保護者との連絡が十分ではないと考えている保護者が8%(前年度-2%)おられることが課題であり、さらなる情報収集と発信に努めたい。
	④ 同窓会	<ul style="list-style-type: none"> 学校が目指していく改革を可能な限り、同窓会役員と共有する。 さくら会行事の運営（総会、運動会での売店、成人式等）に対して、連携し、卒業生との円滑な交流を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> さくら会行事には、総会、運動会での売店、成人式等の活動を滞りなく実施していただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生と幅広く情報を交換していくことが課題である。行事のみではなく、懇親会等、意見を聞く機会を設けたい。
	⑤ その他	<ul style="list-style-type: none"> カンボジアの子ども達の生活を知り、「友達未来便」として学習品を送る活動を通して、グローバルな視点で奉仕することの大切を学ばせる。 釜ヶ崎の現状を知り、「お米一人運動」として炊き出しのお米を支援することで、困っている人のために何が出来るかを考え、奉仕することの大切を学ばせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「友達未来便」の活動を児童会の子どもの活動に位置づけ、より深く、広く海外の子ども達の生活を知る機会を提供し、グローバル的視野を持たせた。 お米一人運動を展開し、毎月20kg程度のお米を釜ヶ崎の炊き出しに協力した。 	<ul style="list-style-type: none"> 奉仕活動は継続が重要である。来年度も活動を継続して行う。

募集・入学にかかわる事業	募集活動の強化	<p>i) ホームページの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> トピックスを毎日更新し、ホームページを閲覧する人を増やし、学校生活の様子を広く広報するとともに、入試行事への参加者の増員を図る。 携帯サイトを作成し、より見やすいホームページに改良し、アクセス数の増加を図る。 <p>ii) 来校者増加のための企画</p> <ul style="list-style-type: none"> 入試説明会やプレテストの他、年長児と年中児を対象とした体験会を別々に企画し、園児は教員と触れ合うことで、保護者は教育環境を見ることで、本校をよりよく知ってもらう機会とする。 個別見学を積極的に受け入れ、志願者が来校する機会を増やす。 紙媒体の広報ではなく、小学校受験に特化した業者のホームページへのバナー広告を継続する。 学校説明会のアンケート結果や塾・幼稚園の先生方からの情報等により、園児保護者の知りたい内容を把握し、次回の学校説明会の案内に盛り込むことで、来校者を増やすことに努める。 <p>③ 塾・幼稚園対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員全員による塾・幼稚園訪問週を年数回設置し、学校説明会への案内と本校の教育を広報する。 広範囲の幼稚園・保育園・塾・幼児教室を訪問し、信頼関係の構築に努める。 塾・幼稚園主催の入試説明会に積極的に参加し、本校の取り組みと入試説明を実施する。 <p>④ 入試対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 年3回の入試を実施し、定員確保に努める。 入学させたい子ども像を明確にし、園児保護者が受験準備しやすい環境作りに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> トピックスを毎日更新、携帯サイト用ホームページを作成し、ホームページに改良し、アクセス数の増加を図った。 体験会を新規に企画し、学校を見てもらうだけでなく、本校にどんな教員がいるのかを保護者と園児に知ってもらう機会となった。 塾・幼稚園主催の入試説明会に積極的に参加し、本校の取り組みと入試説明を行った。 3回の入試を実施し、定員確保に努めた。 <p>・上記の募集活動の強化を実施したことに加え、従来の教育方針から21世紀型教育の方針をアピールしたことが、入学者にご理解いただけ、入学者数86名の確保につながった。新1年は、3クラス編成に回復した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2017年度新1年を96名確保することから課題である。募集活動の強化に並行して、選ばれる学校となるため、21世紀型教育を推進していくことを推し進め、募集定員確保に努める。 年間3回の転入試験、随時帰国子女の編入試験も実施していく。
	等女学院中学校・高	<p>(i) 児童との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> クラブ交流(4・5・6年生)を継続し、本校の子どもたちと大阪聖母女学院中学校・高等学校の生徒とのつながりの強化を目指す。 <p>(ii) 小中高一貫教育の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語を小中高一貫カリキュラムの一步とする。 聖堂管理を大阪聖母女学院中学校・高等学校の宗教科とともに実施する。 <p>(iii) 入試広報業務の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校の参観日等に、大阪聖母女学院中学校・高等学校の説明会を同日開催し、教育活動情報を積極的に公開することで内部進学者の確保に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> クラブ交流(4・5・6年生)を今年も継続した。 本校の参観日ごとに大阪聖母女学院中学校・高等学校の説明会を案内し、教育活動情報を積極的に公開することで内部進学者の確保に努めることにつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> 小中高一貫校づくりが文部科学省からも推奨されている昨今、本校においては、小中高の連携が可能となっている恵まれた環境であることを鑑み、行事等の連携にとどまらず、21世紀型教育カリキュラムにおいて連携することが課題と考える。その第一歩として、育てたい子供像、生徒像を共有することから始めたい。
	幼稚園	<p>京都聖母学院幼稚園主催の入試説明会に参加し、本校の取り組みと入試説明を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 京都聖母学院幼稚園主催の入試説明会に参加し、本校の取り組みと入試を説明した。 幼稚園年長遠足地として本校裸足の広場を開放した。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も同様の活動を依頼したい。
	院中学校	<ul style="list-style-type: none"> 大阪聖母女学院中学校・高等学校の2017年度以降共学化に伴い、女子校希望の内部生に対して、京都聖母学院中学校・高等学校の学校説明会を実施してもらう等、同法人内の所属として連携する。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の学校法人の私立中学に進学していた女子の数が若干減少し、香里ヌヴェール学院中学校・京都聖母学院中学校ともに進学者数が増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も同様の活動を依頼したい。
	ンター	<ul style="list-style-type: none"> の学校カウンセラーと日常的に相談を行い、子どもたちの自己肯定感を育成するように努める。 教育相談の対象を保護者にも広げ、適宜、学校カウンセラーと保護者をつないでいく等、子ども、保護者、学校が一つの方向を向いて、進めるように努める。 『ボランティア室』と連携をとり、紙芝居実施等をおとして、子どもたちの支援に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 聖母教育支援センターの学校カウンセラーと日常的に相談を行い、児童理解を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校カウンセラーの来校日の面談予約を綿密に行い、より連携し行く。